



株式会社 日本政策投資銀行
執行役員 産業調査本部副本部長

竹ヶ原 啓介氏

略歴

- 2009年～ 環境省「環境産業市場規模検討会委員」
- 2013年～ 環境省「環境成長エンジン研究会委員」
- 2016年 経済産業省「持続的成長に向けた長期投資研究会」委員

CSR報告書2018は、CSV経営の全体像を伝えるパート1と、これを支える多様な取り組みを「CSRの4本柱」に則して報告するパート2との2部から構成されています。この構成に変更はありませんが、独自の経営モデルCSV-SSの進捗を受けて、内容面で幾つか重要な変化がみられます。

まず、「社会システムの大変革を好機と捉える」と明言したトップメッセージに象徴されるように、社会課題の解決と企業の成長を同期させる価値創造シナリオが従来以上に明確に打ち出された点です。この観点から特集ページを読み進めば、人的資源、コンセッションに象徴される「脱請負」ビジネスモデル、オープンイノベーション志向に裏付けられた技術力などが、貴社の価値創造シナリオの構成要素であることが容易に理解出来ます。研修制度の効果を社員と上司の両面から紐解いた特集01は、人的投資のアウトカムを考えさせる素材であり、また、オープンイノベーションを社会課題解決に関連づけて紹介している特集03は、MAEDA SIIというユニークな取り組みと相俟って、貴社の視野の広さを印象づけてくれます。こうした各コンテンツの興味深さもさることながら、パート1全体を通してCSV-SSをストーリーとして語ろうとしている姿勢が印象的です。ESG投資家へのメッセージを念頭においているとすれば、非常に良い試みだと思えます。

次に、CSRの取り組みを具体的に紹介するパート2の開示に関する変化が挙げられます。多岐に亘る取り組みを網

羅的かつ詳細に紹介するという特徴は残しつつ、今号は、マネジメントを前面に打ち出した構成となり、開示内容にもメリハリがつけられました。方針やマネジメントの考え方を各項目の冒頭に配することで、様式が統一されて読みやすくなりました。また、担当役員のメッセージを加えることで、コミットメントがより強く感じられます。Web上のデータブックとの棲み分けとも相俟って、開示情報にメリハリが付き、簡潔かつ非常に理解しやすい内容になったと思います。今後の充実を前提に、新たに税の透明性や労働慣行、人権等の開示項目が追加された点も、非財務情報開示を巡る昨今のニーズを的確に認識していることを示しています。

今後は、新たな方向性に合わせて項目間の調整や内容の一層の充実が進むことに期待したいと思います。例えば、上述のとおり、パート1は全体としてCSV-SSという貴社の価値創造を見事に示してくれていますが、巻頭に配された「『共有価値の創造』プロセス」は、昨年までの経済的価値創造と配分モデルに依拠しており、接続にもう一工夫あってもよいでしょう。また、コンセッションの特集も大変興味深い内容ながら、貴社のビジネスモデルとの関係性にもう少し言及しても良かったと思います。いずれにしても、今号は、2019年1月に創業100年を迎えるにふさわしく、次の段階への方向性を打ち出したエポックメイキングなレポートといえるでしょう。

有識者意見を受けて

竹ヶ原様には貴重なご意見をいただき、心より感謝申し上げます。

当社のCSV-SS経営は3年目を迎えました。現在、私たち企業が担うべき重要な役割は、持続可能な社会の実現に向けた牽引役となることであり、SDGsやESGの理念にも合致すると考えています。

そこで、今年度のCSR報告書では、当社の事業に関わりのある社会課題とその解決に向けた取り組み状況について、ステークホルダーの皆さまの視点を加えてお伝えすることにしました。またパート2では、各業務を持続的かつ着実に実施するためのしくみをお伝えすべく、目標、考え方やマネジメントを明らかにしたとともに、その業務によって目指すSDGsのゴールを掲載しました。こうした開示情報の見直しにより、各業務の現状や問題点を再確認できたことは大きなメリットでした。今後、これらの気づきを業務に反映させてまいります。

同時に、今後の課題も見えてまいりました。例えば「当社がめざすゴール」や「データからのアプローチ」を開示し、当社の事業や経営に対してより客観性を持たせることが、ステークホルダーの皆さまからの信頼につながるものと考えます。

最後に、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーション媒体についても、再考の時期を迎えていると感じます。当社が初めてCSR報告書を発行した11年前に比べ、社会や企業を取り巻く経営環境の変化は格段に速くなりました。ステークホルダーの皆さまが当社に求める情報に対し、タイムリーにお応えする最適な媒体を検討したいと考えています。

おかげさまで、当社は来年創業100周年を迎えます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



CSR・環境担当 兼 経営管理本部長
中島 信之

編集後記

このたびは当社「CSR報告書2018」をご覧いただきありがとうございます。

今回の特集は昨年のテーマを踏襲し、「働き方改革」と「会社の成長」のいまを、ステークホルダーの視点を交えてお伝えしました。

特集テーマの決定にあたっては当部ならびに関係者で議論し、「CSV-SS経営の進捗」をご報告することが、ステークホルダーの皆さまに対して最も誠実かつ重要であるとの結論に至りました。ぜひ一昨年度、昨年度の特集記事と合わせてご覧ください。

本報告書の作成にあたり、お忙しいなか多大なるご協力をいただきました社員をはじめステークホルダーの皆さまに、この場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

CSR・環境部

本報告書について

CSR報告書の印刷物製造作成にあたり、4,222kg-CO₂を排出しています(約528g/1冊)。そこで編集や製造工程で使用する電力9,000kWhに、バイオマス発電で作られたグリーン電力を使用しました(CO₂排出量は『Printing Goes Green』により算出)。

本印刷は、視認性、判読性に優れた書体であるユニバーサルデザインフォントを採用しています。